

にのみやそんとくぜんしゅう

## 二宮尊徳全集

にのみや・そんとく

作者: 二宮尊徳(1787-1856)

成立: 昭和2~7年(1927-1932)



## 解題

## Keyword

- 報徳仕法
- 富田高慶
- 「報徳記」
- 福住正兄
- 「二宮翁夜話」

二宮尊徳偉業宣揚会によって、昭和2年から7年にかけて刊行された二宮尊徳の思想と業績の全容を示す全集。原理、仕法雛形、日記、書翰、仕法、雑輯、門人名著集の全36巻から構成される。日記、書翰等には、二宮尊徳没後の記録も一部含まれる。また第36巻の別輯「門人名著集」は5人の門人の著作選集となっている。これまで尊徳の著作集は何度か刊行されているが、二宮尊徳偉業宣揚会のものが最大規模である。二宮尊徳百二十年祭記念事業の一環として昭和52年(1977)に龍溪書舎から覆刻版が刊行された。

## ■ 作者

二宮尊徳は天明7年(1787)7月、相模国足柄上郡栢山村(現・神奈川県小田原市栢山)において、二宮利右衛門の長男として生まれた。通称金次郎、諱は尊徳(本来は「たかのり」が正しいが、一般には「そんとく」と称されている)。

26歳の時、小田原藩の家老・服部十郎兵衛家の若党となり、同家の財政立直しを依頼され、成功する。以後、報徳仕法によって各地の村や家の復興に尽力した。安政2年(1855)には今市(現・栃木県今市市)の仕法役所に一家をあげて移住したが、翌安政3年3月に70年の生涯を閉じた。

## ■ 報徳仕法

二宮尊徳の思想を基本とした、藩や村や家の復興法あるいは復興運動。報徳仕法の原理は、勤労・儉約・分度・推譲とされる。財政難の原因は、収入と支出の不均衡にあると考え、徹底的な生活の合理化が必要であり、

そのうえで積極的な経営を行えば財政難を克服できるとした。そのためには意欲的な生活目標をたて、長期的な収支計画をたてるべきであるとした。この計画的な生活方法を分度（ぶんど）とよび、その努力によって余裕ができたならばこれを社会に還元すべきで、これを推譲（すいじょう）と呼んだ。

### ■ 富田高慶（とみた・たかよし）

二宮尊徳の高弟、報徳運動の指導者の一人。文化11年(1814)相馬藩士・斎藤嘉隆の次男に生まれ、天保10年(1839)二宮尊徳に入門、尊徳を助けた。弘化2年(1845)相馬藩に帰り、藩財政の再建と農村救済に当たった。尊徳一代の事業について述べた『報徳記』を安政3年(1856)に著したが、この著作が報徳思想の普及と実践に多大な影響を与えた。

### ■ 福住正兄（ふくずみ・まさえ）

二宮尊徳の高弟、報徳運動の指導者の一人。文政7年(1824)相模国大住郡片岡村(現・神奈川県平塚市片岡)に大沢市左衛門の五男として生まれた。弘化2年(1845)尊徳に入門し、下野国真岡の開発等に従事し6年間を過ごした。相模国湯本村の温泉宿福住家に嘉永3年(1850)入籍し、報徳仕法により家政の改革につとめた。『富国捷徑』『二宮翁夜話』等の著作がある。



## 構成 [K157/49A]

- 第1巻 原理
  - 其1 根本原理 其2 仕法雛型原理
- 第2巻 仕法雛型
- 第3巻 日記 上 (文政5年～弘化元年)
- 第4巻 日記 中 (弘化元年～嘉永2年)
- 第5巻 日記 下 (嘉永3年～安政4年)
- 第6巻 書翰 1 (文政7年～天保13年)
- 第7巻 書翰 2 (天保14年～弘化4年)
- 第8巻 書翰 3 (嘉永元年～嘉永5年)
- 第9巻 書翰 4 (嘉永5年～安政6年)
- 第10巻 仕法 桜町領 1
  - 其1 報徳仕法以前の宇津家 其2 報徳仕法以前の宇津氏領土の大勢
  - 其3 報徳仕法着手
- 第11巻 仕法 桜町領 2
  - 其4 報徳仕法進行第一期
- 第12巻 仕法 桜町領 3
  - 其5 報徳仕法進行第二期
- 第13巻 仕法 桜町領 4

- 其6 報徳仕法永続状態書類
- 第14巻 仕法 小田原領 1  
其1 報徳仕法以前の小田原領
- 第15巻 仕法 小田原領 2  
其2 小田原藩士の仕法 其3 小田原領内報徳仕法急施設
- 第16巻 仕法 小田原領 3  
其4 難村復興と栢山地方の仕法
- 第17巻 仕法 小田原領 4  
其5 酒匂右岸並箱根諸村の仕法 其6 酒匂左岸河口地方諸村の仕法
- 第18巻 仕法 小田原領 5  
其7 酒匂川左岸諸村の仕法
- 第19巻 仕法 小田原領 6  
其8 富士東麓諸村の仕法 其9 三崎、浦賀地方の仕法  
其10 小田原領報徳仕法の終結
- 第20巻 仕法 幕府直領 1  
其1 韮山代官所管内の仕法 其2 幕府直轄領仕法の初期
- 第21巻 仕法 幕府直領 2  
其3 真岡管内の仕法 附 神津氏の仕法
- 第22巻 仕法 青木村
- 第23巻 仕法 谷田部、茂木領
- 第24巻 仕法 烏山領
- 第25巻 仕法 下館領 1
- 第26巻 仕法 下館領 2 諸州諸家 1
- 第27巻 仕法 諸州諸家 2
- 第28巻 仕法 日光神領 1  
其1 発端総記並実施初期 其2 仕法雛形の徹底的施設
- 第29巻 仕法 日光神領 2  
其2 仕法雛形の徹底的施設(つづき)
- 第30巻 仕法 日光神領 3 雑輯 幕府御用書類  
其2 仕法雛形の徹底的施設(つづき)
- 第31巻 仕法 相馬領 1  
其1 一般的仕法書類 其2 村別施設書類
- 第32巻 仕法 相馬領 2  
其2 村別現量鏡(つづき)
- 第33巻 仕法 相馬領 3  
其3 坪田村仕法実施書類 其4 日下石村仕法実施書類
- 第34巻 雑輯 2  
其1 日記(安政5年～明治元年) 其2 書翰(万延元年～慶応2年)

第35巻 雑輯 3

其1 諸家仕法関係書類 其2 日記 別17番(文政7年)～別27番  
(天保5年) 其3 米金出納帳

第36巻 別輯 門人名著集

富田高慶選集／斎藤高行選集／福住正兄選集／岡田淡山選集  
二宮尊親選集



史料についてさらに知る－参考文献－

<文献目録>

- 『二宮尊徳研究文献目録』二宮尊徳百二十年記念祭事業会編 龍溪書舎 1978 [K157/299] ※『補遺』(1980)もあり
- 『小田原市立図書館 報徳集書解説目録』小田原市立図書館 1988 [K157.7/26]
- 『二宮尊徳および報徳教関係資料目録』神奈川県立図書館 1999 (地域資料目録・主題別シリーズ3) [K157/486]

<二宮尊徳について>

- 『二宮尊徳研究』佐々井信太郎著 岩波書店 1927 [K157/163]
- 『二宮尊徳伝』佐々井信太郎著 日本評論社 1935 [K157/5]  
※覆刻版(経済往来社 1977)あり
- 『二宮尊徳』奈良本辰也著 岩波書店 1959 (岩波新書) [K157/124]
- 『二宮尊徳』守田志郎著 朝日新聞社 1975 (朝日評伝選) [K157/195]  
※覆刻版(農山漁村文化協会 2003)あり
- 『二宮尊徳の人間学的研究 増補』下程勇吉著 広池学園事業部 1988 [K157/340A]
- 『尊徳開顕：二宮尊徳生誕二百年記念論文集』二宮尊徳生誕二百年記念事業会報徳実行委員会編 有隣堂 1987 [K157/379]
- 『二宮尊徳のすべて』長澤源夫編 新人物往来社 1993 [K157/441]
- 『尊徳の森』佐々井典比古著 有隣堂 1998 [K157/481]
- 『二宮尊徳とその弟子たち』宇津木三郎著 夢工房 2002 (小田原ライブラリー 3) [K157/504]
- 『尊徳：栃木・茨城・神奈川・静岡・群馬の仕法 (上・下)』大木茂著 随想舎 2003 [K157/597]
- 『ゼロ成長の富国論』猪瀬直樹著 文藝春秋 2005 [K157/596]

<門人について>

- 『地域おこしの手本：至誠一貫の富田高慶』相馬報徳会 1991 [K157/429]
- 『尊徳門人聞書集』報徳博物館 1992 (報徳博物館資料集1) [K157.7/15/1]
- 『福沢諭吉と福住正兄：世界と地域の視座』金原左門著 吉川弘文館 1997 (歴史文化ライブラリー 26) [K28/259]